

〔御日記^{六十}〕元和八年十二月廿六日、立花宗茂子、千熊麻呂元服、公^{○德川}召千熊麻呂、以御諱字賜、千熊麻呂稱忠茂、叙從四位下、任左近將監兼飛驒守、

〔武藝小傳^五〕神子上典膳忠明

由台德大君^{○德川}命、言上刺擊之事、台德大君甚賞精妙、賜諱字號忠明、其芳譽遍海内、寛永五戊辰

年十一月七日、於江戸卒、

〔西山遺事^一〕同^{○寛永}十三年丙子七月六日、武州江戸の御城にて御元服、大猷公^{○德川}御諱の一字

を賜ひて、徳川左衛門督光圀と稱せらる、御歳九歳、

〔嚴有院殿御實紀^七〕承應三年正月十二日、松平犬千代首服加へられ、御名^{○德川}の一字給はり、正

四位下少將に叙任し、加賀守綱利^{後綱紀}と稱す、

〔基長卿記〕正徳二年十二月十二日、巳刻參院令宿、爲關東^江御用、松平紀伊守參院若君名字、院^{○靈}

御定被願申、依是被定遣、御治定、字家繼、被染宸翰^{仙洞宸翰也}、被下、仍而召紀伊守、被渡了、

〔文恭院殿御實紀附録^三〕千住の邊に御放鷹ありし時、餌まき孫右衛門といふが、鳥飼の事、殊に高

手なりしが、渠に宣ひしは、今日は殊更に鶴を手に入度と仰られしに、孫右衛門、平生傲言の者な

りしが、今日は某力をつくし候はんには、たやすく御手に入べしと放言せしが、果して御手に入

たり、公^{○德川}大に悦ばせ玉ひ、げに高名空しからずとて賞し玉ひ、此ごろ歌舞伎役者に、歌右衛

門といふが、世に上手なるよし、汝も歌右衛門と名乗べしと命ありて、その名を拜領せしと、後ま

でも人々に誇れりぞぞ、

〔名目抄^{諸公事言説}〕改名^{カクシヤウ}

〔傳宣草^上〕改名事

奉入

改名